

授業科目名	教育行政学	必修	開講年次	2	単位数	2
科目区分	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）					
サブタイトル	制度の視点から教育問題を捉える	担当者	丸橋 唯郎			
講義概要	<p>【概要】一般に教育は社会の諸関係が生み出すメカニズムに支配され、また社会の人びとの意識によって媒介されながら有機的に生きていとされる。教育行政学ないし教育行政研究とは、制度の視点から教育の問題を考えるのが特徴である。</p> <p>【到達目標】① 社会環境の中に存立する教育を生み出した人びとの意識を誘導した教育制度に着目する。② 学校教育論を中心に制度としての教育について考える能力を身につける。 ③ 教員採用試験突破の知識を獲得する。</p>					
履修条件	教育原理、教育心理学、単位取得者を前提とする。					
教科書・参考書	<p>【教科書】毎回担当者が用意する。</p> <p>【参考書】</p>					
授業回数	内容					
1	教育行政の歴史と現状分析					
2	教育行政組織と学校教育					
3	学校の目的と学校教育の目標					
4	学校の公共性と学校の設置者					
5	学校の設置に係る基準					
6	設置者管理主義と設置者経費負担主義					
7	校務と学校運営の組織					
8	学校運営協議会と学校評議員					
9	学校保健と学校安全					
10	教育委員会の組織					
11	教育委員会の性格と職務					
12	教育委員会の設置機関					
13	教育委員会の権限					
14	教育委員会と社会教育					
15	教育システム再考					
評価方法	出席、確認チェックテスト、総合テストで評価する。結果主義を原則とする。					
評価基準	全出席が原則。① 講義で用いた教育法規に関する言葉を8割は知っている ② その言葉の内容をとりあえず説明できる ③ その言葉の内容を小学生でもわかるように説明できる、の要件の中で、すべてを満たせば文句なくA、②までならB、①までならC、以下不合格とする。					
その他	教職基礎教養科目三本柱の一つ。教員採用テスト出題率が最も高い科目。言葉とその内容にこだわりたい。					